

何も知らなかつたから

森下桂子
Morishita Keiko

災害時、栄養・食生活などの支援活動を通して災害地支援を行う、日本栄養士会災害支援チーム。森下桂子さんは、岡山県のチームリーダーの人です。「私が災害支援チームに携わるようになったのは、災害について何も知らなかつたから。息子を助けに行くにはどうしたらいいのかなという疑問からでした」と話す森下さん。タイミング良く災害支援研修があり参加したところ、「あまりの無知・能力不足に衝撃を受けました」と言います。しかし、同じ研修を受けていた兵庫県から来ていた人たちは難なくこなせており、「実際に災害があつたところは、その後の準備をしているんだな」

真

M A N I W A B I T O

庭

人

まずはやってみる

森下さんが考える防災とは、起り得る災害を知ること、その時の対応を考えること、つまりは災害と自分の体力などを考えながら対策を練ること、そして対策を練つたら模擬体験をしてみると。「まずはやってみる。頭の中だけでは、いざと言ふときに動けないので。やってみて、考えて、また試して。トライアンドエラーですね。難しく考えず、庭で火起こしや、缶詰めを食べるとかし

と落ち込むと同時に感動を持ち帰ったそうです。その後、支援チームのメンバー養成に携わるようになります。現在も養成をしながら、日々勉強中とのことです。

てみてください。いろいろな研修もあるので、参加するのもいいですね」と言います。

『つなぐ』

災害支援のキーワードは『つなぐ』。「とにかく

命をつなげるようにしておきましょう。つなげた命はいろんな災害支援チームが次につなげます。今の自分の状態と災害傾向を知り、共に考え方をしよう」と話してくれました。

エマージェンシーシートと緊急トイレは必携



森下桂子さん(一色)

1964年生まれ。久世出身。日本栄養士会災害支援チームリーダー。防災士。元学校栄養士。趣味は自転車や着物、デイキャン、田畠や庭の管理。庭の愛称は「サンマルク」

日本栄養士会の災害支援ページ▶



43

2023

いまにわびと